

「特集」

京都発、観光列車で巡る夏

PART 1

22 京都丹後鉄道「丹後の海」「丹後あかまつ号」

村井美樹さんと行くきさらめく丹後鉄道紀行
旅人＝村井美樹 文＝安藤寿和子

PART 2

31 叡山電車「きさら」

ちよつときさららで貴船まで 文＝安藤寿和子

PART 3

36 嵯峨野観光鉄道「嵯峨野トロッコ列車」

親子で楽しむ！嵯峨野鉄道1dayトリップ
旅人・文＝恵知仁

42 夏から秋におすすめ！ 特選観光列車情報

44 京都発、観光列車で巡る夏(案内図) ❷

14 **新連載** Interview しなやかな挑戦 文＝森綾

尾上右近 歌舞伎俳優

おいしいもんには理由がある 文＝土井善晴

52 いちご煮と潮風の町
【青森県八戸市・三戸郡階上町】 ❸

9 京都の路地まわり道
文＝千宗室

青楓

11 ひとときエッセイ「そして旅へ」
文＝小川哲

13 日常の舞台を旅の中に
古書もの語り 文＝内堀弘

永田耕衣

47 柳家喬太郎の旅メシ道中記

上田さんのからし蓮根
【熊本市】

48 地元でエール これ、いいね！
東京銀器【東京都台東区】

51 **新連載** 新幹線で建築さんぽ
文＝甲斐みのり

明治生命館【東京駅】 ❹



天橋立駅と西舞鶴駅を結ぶ観光列車「丹後あかまつ号」の運転手さんと村井美樹さんが記念に1枚写真＝雨宮秀也(下も)

58 旬 News & Topics

60 美 Art & Entertainment ❶

62 遊 Event & Festival

旅の小箱 from J.R.東海、J.R.西日本

64 京都に眠る癒しを探す
謎解きイベント開催中

66 ホテルアソシア高山リゾートの
開業30周年記念プラン

67 山口逢春記念館 夏季企画展
古都の情景と源氏絵

68 特別な列車で記憶に残る鉄道旅に

69 この夏、新幹線で旅しよう！

71 みるみるキャンベーン開催中
五感で楽しむ北陸旅へ出発！

73 長崎・佐賀のフォトスポットで
夏の思い出の一枚を

74 ひととき倶楽部 ❷
読者からのお便り
今月のプレゼントなど

76 次号のお知らせ

78 ルートマップ
東海道・山陽新幹線時刻表



京都丹後鉄道きつてのフォトスポット、由良川橋梁を渡る「丹後あかまつ号」。車両中央辺りに、車窓の景色を眺める村井さんの姿が



特集

京都発、 観光列車で 巡る夏

この夏の京都旅行に

「京都から観光列車に乗って

夏の風情を楽しむ旅」を

組み入れてみてはいかがでしょう。

おだやかにきらめく夏の日本海、

深山の冷気と風情、

渓谷に行く列車の絶景……。

バラエティー豊か、美味も

自然も目いっぱい楽しめる、

京都発の小さな鉄道旅行です。

今年の夏は涼を求めて、ひと味違う

京都を楽しみませんか？



水しぶきを上げる保津川の清流を見下ろしながら走る、嵯峨野観光鉄道のトロッコ列車。関連記事は36頁から 写真＝三原久明

京都丹後鉄道「丹後の海」「丹後あかまつ号」

村井美樹さんと行く きらめく丹後鉄道紀行



京都駅から観光列車に乗って、潮風心地よい丹後の海辺へ。
そんな素敵な1泊2日の旅に、鉄道愛あふれる俳優・村井美樹さんが向かいます。
線路の先には、あなたの知らない「海の京都」が……

旅人 ■ 村井美樹
Murai Miki

文 ■ 安藤寿和子
Ando Suwako

写真 ■ 雨宮秀也
Amemija Hideya



海に向かって出発進行!

スタートは京都駅の31番ホームから。乗り込むのは特急「はしだて」5号、天橋立^{あまほはしだて}行き。この列車は「丹後の海」と名付けられた美しい車両で運行されている。

日本海の中でもひとときわ澄んだ藍の色、丹後の海原を映したようなメタリックブルーの車体が「これから、海に行くぞー!」という気分を盛り上げてくれるのだ。村井さんは? とホームを見回すと、発車前の列車とツーショット。その手もとを見ると可愛いこけしがニコツ。

「旅に出る時はいつも、行き先や、列車の色に合わせたこけしを連れて行くんです。旅のお供こけし(笑)。今回は、明日乗る『丹後あかまつ号』にちなんで、赤リンゴこけしにしたんですけど、青い子も連れてきたらよかったです」

家には旅先で買い集めた200体近くのこけしがいて、お供の出番を待っているそう。最近是一緒に旅をすることも増えた5歳の娘さんもまた、マイお供こけしを持っていて、母娘の鉄道旅はなかなか賑やかな様子。なるほど、お供連れだと記念の写真も映えそうですね、と早速、旅を楽しむコツをひとつ教えてもらいながら列車に乗り込む。すると内装がまた凝っていて、客室天井と壁は白樺、床は檜^{かき}、座席は楓、と深呼吸したくなるような木の空間。日よけの



[左・右上] 観光列車デザインで定評ある水戸岡鋭治氏が手掛けた、遊び心と居住性を兼ね備えた車内。共有スペースにはソファとテーブル、前方の窓からは線路も見えて、鉄旅の醍醐味満喫！ [右下] 車窓には心癒やされる田園風景

むらいみき / 俳優。京都府生まれ。早稲田大学教育学部卒。大の鉄道好きでテレ東系列「バスVS鉄道 乗り継ぎ対決旅」に出演。旅、歴史、クイズ番組など多方面で活動中



[右]「丹後の海」の共有スペースでくつろぐ村井さん。大きなソファのわきの小さな棚にマイお供こけしを置いて、ごきげん [上] 特急「タンゴ・ディスカバリー」で使用されていた車両をリニューアルしている

ブラインドは、なんとすだれである。ゆったり広い共有スペースもこの列車の魅力で、ひととき大きな展望窓には組子細工の木枠が施され、車窓の景色が、まるで絵画のように見える演出も心憎い。「ビュッ！」と一瞬で景色が飛んでゆく新幹線も気持ちいいですけど、ゆつたりと車窓の景色が楽しめるのはローカル線の魅力ですよ、まるでロードムービーみたい。初夏は水がたつぷり張られた田んぼが鏡みたいになって青空や山が映っていたり。それが真夏になると青い稲がぐんぐん育って清々しい景色になって。ぼんやり眺めているだけで心が洗われる。こんなふうに移動の時間もまるごと楽しめるのは、列車旅の

TANGO NO UMI



丹後の海

「海の京都」をイメージした特急列車。藍色メタリックの車体、内部は木をふんだんに使った贅沢な造り



3



「まずは列車の顔を、パシキ！」

①車窓に広がる日本海。中でも奈具(なく)海岸の美しさはひときわ ②絶景! 由良川橋梁をゆく丹後あかまつ号 ③笑顔が素敵な丹後あかまつ号の運転手さん ④座席はフリー。思い思いの席で景色を楽しんだり、お茶を飲んだり ⑤丹後の伝説にちなんだご当地もの「丹後七姫サイダー」 ⑥木のぬくもりに包まれるソファ席でまったり ⑦西舞鶴駅近くで、昨年まで高山本線を走っていたキハ85系「ワイドビューひだ」を発見! 現在は特急「たんごリレー」号として活躍中



1



4

AKA-MATSU



丹後
あかまつ号

モチーフは天橋立の白砂青松。カフェを併設、車窓に広がる海を眺めながら、ゆっくりとした時間が楽しめる



2



7



6



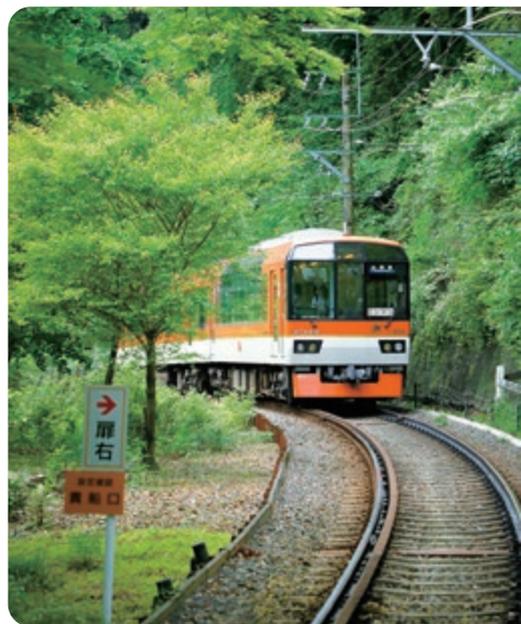
5

*「丹後あかまつ号」の車内カウンターでは、アテンダントの乗務時・車内販売時間のみ飲み物や軽食などの購入が可能です。アテンダントが乗務しておらず、車内販売を行っていない場合もあります
*最新情報は、京都丹後鉄道のホームページをご確認ください

KIRARA

きらら

夏は青もみじ、秋は紅葉。
天井まで続く大きな窓から
山あいの自然を大迫力で楽
しめる展望列車



[上]始発の出町柳駅を出て30分弱、市街地を抜け二軒茶屋駅を過ぎるあたりから深山の様相に。市原一ノ瀬間には木々に囲まれる絶景スポット、もみじのトンネルが！ [下]この景観はぜひ、窓に向けたパノラマシートで楽しみたい

「京都の人は叡山電車えいざんで貴船きぶねに行きますか？」。夏のはじめに質問をいただいた。行きます行きます、少なくとも私が貴船へ行くときは、叡電です。

もちろん貴船へ行く方法はほかにもある。けれど、貴船は市内とはいえ、気温だけでなく、空気感もまったく異なる別天地。気の生ずる根源として「気生根」の字もあてるほど、そんな聖域へ足を踏み入れるには、いつもとはちよつと違う手続きが欲しい。そうしたとき、鴨川デルタのほど近く、「出町柳でまちやなぎ」という小さな駅から1両か2両でゴトゴト走っていく叡電は、非日常への入り口に格好なのだ。

まして展望列車「きらら」なら窓に向けて座るパノラマシートもあつて、気分も上々。これに乗りさえすればおよそ30分でうだる暑さの町を脱出、清らかな瀬音と谷わたる鳥の声、そして、ただのひんやりとは違う深山の香気に包まれるような、溪谷

の極楽境に辿り着くことができる。

川を独り占めの開放感

降りる駅は「貴船口」。鞍馬の奥から流れる鞍馬川と貴船川が合流する辺りだ。そこから「川床かわどこ」の並ぶ貴船神社界隈まで、貴船川を遡るように歩いて20〜30分程度。途中、平安の女流歌人、和泉式部がこの辺りで詠んだという和歌にもちなむ「蛭岩」など横目に見つつ、貴船神社まで、あとどのくらい……と、ひと息つきたいくらいの場所に、川床カフェ「古今藤やここんふぢや」がある。

ここは川沿いのテラス席（席料なし）のほか、スイーツやドリンクの価格に550円をプラスするだけで、涼感満点の「川床」が楽しめる、知る人ぞ知る穴場。昨今、カフェもちらほら増えている貴船だが、しつらいも雰囲気も別格の感がある。しかも、この辺りのお店は一軒だけ。川床へ降りた途端、パーツと視界が広がり、清流は触れ

られるほど間近。頭上からは青葉越しの陽光がキラキラ。その開放感たるや！

「お客さんが、ちよつとおビール飲んで、川風に吹かれて、ゆつくりしてはるのを見ると、羨ましいなあと思うときがありません」とは「古今藤や」の看板娘、藤谷芳香さん。日々、この地に居る人すら魅了する貴船川の清涼なのである。

貴船の里のお土産は

貴船神社の参道には数々の料理屋が軒を並べ、歩いていると「お昼はお済みですか？」「川床、どうぞですか？」などと、被や襷びやたすがけ姿のお店の衆から声が掛かるのも昔ながらで風情がある。気軽な川床体験なら、先ほどのようなカフェがいいけれど、せっかくの貴船、川床でゆつくりお昼をいただきましょうという折には、とくに初めての貴船なら、予約をして席を確保しておくのが安心だろう。



京都鉄道博物館 ①本物の蒸気機関車を使った「SLスチーム号」に乗ることが可能。その熱気を体感できる ②既存の梅小路蒸気機関車館を拡張する形で2016(平成28)年に開館。多くのSLが保存されている扇形車庫は、国の重要文化財だ ③EF66形電気機関車の下に入り、6基も搭載されたモーターに驚く健寛君 ④思わず見入ってしまう、幅30メートルの巨大な鉄道ジオラマ。約10分間の運転・解説は日によりプログラムが異なり、来るたびに違った楽しさがある

めぐみともひと/1975年、東京都生まれ。2014年、ウェブメディア「乗りものニュース」を創設し、約6年間、初代編集長をつとめた。のち、フリーの鉄道ライターとして各種メディアで活躍中。

そんな想いで連れて行く京都鉄道博物館には、鉄道好きでなくとも、子どもの好奇心をくすぐるものが色々ある。息子は、「なぜ鉄道車両にはハンドルがないのに曲がるのか」の体験展示や、連結器のしくみが分かる展示、パタパタと行き先などが変わる発車案内板の操作体験が気に入って、何度も繰り返し見ていた。

また保護者的には、空調が効いた屋内が多く、レストランも休憩所もあるため、ありがたい場所だ。出口にあるミュージアムショップで、「あれが欲しい! これも欲しい!」に耐えねばならないが……。

神社仏閣のイメージが強い京都だが、少し違う方へ足をのびせば、子どもや孫と一緒に楽しめ、学びにもなる京都がある。

最後に、小さな子どもと鉄道の旅を楽しむ際は、スケジュールと心に十分な余裕を持つことをお勧めしたい。「トイレ」だとか「もう歩けない」だとか、言い出されるのが常だ。列車の発車まで時間が余ってしまったら、お菓子でも食べ、のんびりしていれば良い。そんなとき、地元の人との出会いが生まれたり、トンボが肩にとまったりする。不自由な時間も、旅の醍醐味だ。

そんな想いで連れて行く京都鉄道博物館には、鉄道好きでなくとも、子どもの好奇心をくすぐるものが色々ある。息子は、「なぜ鉄道車両にはハンドルがないのに曲がるのか」の体験展示や、連結器のしくみが分かる展示、パタパタと行き先などが変わる発車案内板の操作体験が気に入って、何度も繰り返し見ていた。

また保護者的には、空調が効いた屋内が多く、レストランも休憩所もあるため、ありがたい場所だ。出口にあるミュージアムショップで、「あれが欲しい! これも欲しい!」に耐えねばならないが……。

神社仏閣のイメージが強い京都だが、少し違う方へ足をのびせば、子どもや孫と一緒に楽しめ、学びにもなる京都がある。

最後に、小さな子どもと鉄道の旅を楽しむ際は、スケジュールと心に十分な余裕を持つことをお勧めしたい。「トイレ」だとか「もう歩けない」だとか、言い出されるのが常だ。列車の発車まで時間が余ってしまったら、お菓子でも食べ、のんびりしていれば良い。そんなとき、地元の人との出会いが生まれたり、トンボが肩にとまったりする。不自由な時間も、旅の醍醐味だ。



持参した0系新幹線のプラレールを手にポーズをきめる健寛君

漁師が浜で体を温めるため、取れたてのウニやアワビで作った汁ものがルーツ
調理協力=階上〈はしかみ〉
漁業協同組合女性部

おいしいもんには
わけ
理由がある

第68回

文〓土井善晴
Doi Yoshiharu
写真〓岡本寿
Okamoto Hisashi



漁師飯が発祥の、ウニとアワビを使ったごちそうスープ・いちご煮が伝わる海沿いの町を訪ねました

いちご煮と潮風の町

《青森県八戸市、三戸郡階上町》

見どころ満載の海岸線

「海岸線を歩いていただく予定です。歩きやすく汚れの落としやすいスニーカーなどでお越しください」と、取材前、ひととき編集部から連絡がありました。今回の取材地は、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸を結ぶ約1000キロの「みちのく潮風トレイル」に重なるのです。

その起点が、八戸駅からJR八戸線で約20分の鮫駅。三陸復興国立公園の散策マップを見れば、鮫駅から南にJR八戸線と並走する海岸が、みちのく潮風トレイルだと分かります。トレイル上の鮫浦の海岸沿いにある「海鮮料理処 小舟渡」で食事をしていたら、海外から来たご家族が揃って歩きながら、手を振ってくれました。気持ち良さそう……このトレイルを家族で歩けたら最高だと思っています。

八戸の海岸線は見どころ満載。鮫駅から1・1キロの所には、ウミネコの群生地になっている燕嶋神社。訪ねたのが5月の繁殖期で、親鳥に寄り添うウミネコのヒナが見られました。それにしても、ものすごい

数のニャーニャー。上空を舞うウミネコの放つ糞に注意が必要です。

さらに4キロ進むと、種差海岸に到着。こちらは海岸線ギリギリまで天然の芝生が繁茂して、緑の原っぱと青い海、ゴツゴツした岩礁が一望でき、珍しい景色が見られます。夏になるとこの天然芝生の原っぱに、種差海岸を北限とする植物と、南限とする植物とが混じり合って咲くそうです。不思議。

この辺りは、北海道沖から南下する寒流・親潮と、北上する暖流・黒潮、さらに津軽海峡を越えてくる津軽暖流の3つの海流が交わって豊かな漁場をつくっています。多様な命を育む三陸海域が、世界三大漁場といわれるのはそのためです。

日差しを受けて温まった芝生に座り、海を見ていたら、しばらく忘れていた長閑な気分になって動きたくなくなります。ここではどうぞゆつくり時間をお取りください。さて今回のお目当ては「いちご煮」。聞いたことはあるけれど、どんなものかよく分からないですよ。それは私も同じ。「いちご」とは果物の苺のようですが……。

背後にある燕島(かぶしま)に、燕嶋神社が鎮座。もともと離島だったが、1942(昭和17)年に特攻基地建設のため埋め立てられ、陸続きに。ウミネコ繁殖地として、国の天然記念物に指定。取材時は数百羽のウミネコが燕島を埋め尽くしていた。この日は土井さんが示す方向に、大きな虹が!

どいよしはる/1957年、大阪府生まれ。料理研究家、十文字学園女子大学特別教授。NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』(新潮社)、当連載をまとめた『おいしいもんには理由がある』(ウェッジ)など著書多数。



*1 東日本大震災により被災した三陸地域(青森県・岩手県・宮城県の海岸沿い)の復興に貢献するために、2013(平成25)年に創設された国立公園 *2 燕嶋神社では糞除けの傘を無償貸し出ししているため、安心して参拝できます